



今号の法語

過去を遡うな、未来を願うな。

過去は過ぎ去り、未来はいまだ

到っていない。現在をよく観察し、

今なすべきことに、努力せよ。

『中阿含経』
ちゅうあがんききょう



新しい年を迎えるにあたって、過去の一年間を振り返り、そして新たな一年の抱負を述べることは大事なことです。しかし必要以上に過去を引きずったり、まだ見ぬ明日に対して不安を感じたりすることは、実は意味のないことです。上記の経典では、私たちにとって大切なことは何よりも今なのだということをお教えてくれています。私たちの人生は無常といって常に変わり続けています。過去はどうすることもできませんし、思い描いた未来などその通りになるわけがありません。その時その時で軌道修正を行いながら、なすべきことを精一杯努力するしかありません。それも人生です。

ある僧侶の方が、「準備ばかりに追われつつ、大事な本番を迎えずに、ついに空しく終わりけり。大切なのは今でしよう」という歌を詠んでいます。確かにそうだなと思います。これはつい先の事ばかり考えて不安を感じて、「こうなったらどうしよう」と身動きが取れなくなり、最も大事な今という事を忘れて短い人生があつという間に過ぎ去っていくということです。私たちの人生は有限なものです。仏教では「人身受け難し」という言葉があります。人としてこの世に生を受けるということは奇跡のようなものです。せっかく人として生まれたのですから、何よりも今という時間を大事にして、精一杯自分を尽くしていきたいものです。

誌上法話〈報恩講〉



秋のご門徒さん宅での報恩講回りの際にお話した法話を、もう一度聞きたいという声がありましたので掲載します。

報恩講を勤めるに当たって、どのような心構えで勤めれば良いかという質問がありました。それに対してあるお坊さんは、「それは私たちがどれだけ至らないものであるかを、気付かされる為の大切なご縁です」と答えています。宗祖親鸞聖人はいつもご本尊である阿弥陀如来に向かって南無阿弥陀仏とお念仏を唱えていましたが、その心の中では「どこまでも至らない自分でした」と頭を下げておられました。私たちも至らない自分だということは知っているはずですが、すぐに忘れてしまい、思い通りにならない人生を悩み続けています。更にひとつ屋根の下には至らない者しか存在しないのに、その中で「どっちが上か下か」「勝った・負けた」「気に入らない」と言っ分り合えないのも私たちの事実です。その中で阿弥陀様の前に座り、報恩講を勤めるといことは、「私もあなたも共に至らぬ者どうしです」と簡単には下がらない頭を下げさせて頂く大事なご縁です。これからも思い通りにならない人生の中で悩み続ける私たちですが、その都度阿弥陀様の

前で「至らぬものが至らぬ自分を忘れて苦しんでいる」ことを教えていただき、その至らぬ歩みを修正していく。この繰り返しが人生を力強く生きるという事だと思えます。

本山納骨体験記



先日ご本山へ御両親の納骨に行つてこられた門徒の方に、体験記の掲載を依頼させていただきました。

十一月、辻徳法寺さんでの父の十三回忌と母の一周忌法要後、浄土真宗本山東本願寺へ両親の納骨をして参りました。その意義等は何となく思うところはありましたが、それは父の遺言でした。何故父は納骨を望んだのだろうか。

京都へは修学旅行以来行く事は無く、もちろん東本願寺へも同様。それが父が他界した後、呼ばれる様に度々訪れ、自身の癒しの場となりました。行くと必ず訪れるお寺などもあります。東本願寺へは正直数回。そして今年の春、京都を訪れ東本願寺本堂に入った途端、保育園児達の正信偈が始まりました。驚きつつ思わず一座し一緒に読経する様な事もありました。

さて、先にも書いた通り、東本願寺への納骨は本当に恥



餅つき大会 (12/8)



報恩講のお斎 (10/17)

お寺の風景

ずかしながらよく理解しておらず、とにかく父の遺言を遂行すべしと姉、妻、娘二人と私の五人で当日を迎えました。手続き後、まず法話が東本願寺内の立派なホールであり、その後本堂の普段は入れない収骨の場へ案内され、手を合わせ、本堂での正信偈の読経で終了。

勤めを果たしと色んな意味で安堵し感慨も深まり、姉と家族もそれぞれ想うところもあったはずですが、

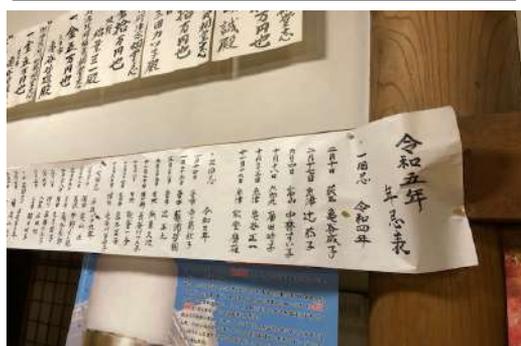
今回導きもあつたんでしょうか、意義等は考えなくても人生で間違いなく大切な時で、先祖への感謝と両親も喜んでくれたと思います。感じる所は多分にありました。

東本願寺、度々訪れる事となりました。

黒部市寺町 辻 浩人

法要名・亡くなられた年

1周忌	令和6年(2024)
3回忌	令和5年(2023)
7回忌	令和元年(2019)
13回忌	平成25年(2013)
17回忌	平成21年(2009)
23回忌	平成15年(2003)
27回忌	平成11年(1999)
33回忌	平成5年(1993)
37回忌	平成元年(1989)
43回忌	昭和58年(1983)
50回忌	昭和51年(1976)



年忌表



法事は亡き人を偲び、同時に亡き人からの大切な願いを確かめながら自分自身を見つめていく仏縁の場です。

今年の年忌表は左記の通りです。年忌法要の当たり年のお方の名前を例年通り本堂に掲載していますので、ご確認ください。またご自宅のお内仏(仏壇)内の脇掛けの法名軸にも御命日が記載されています。ご確認され該当される方、法要を行われる方はご連絡ください。

坊守日記



本年もどうぞよろしく願います。年末はインフルエンザに罹かかってしまいました。とてもつらくて、お正月の準備はどうなるのだろうかと不安に思っていました。一番最初に罹かかり、既に完治していた娘の唯花がお正月の準備や、除夜の鐘を手伝ってくれたり、とても助かりました。いつまでも子どもだと思っていました。今年の年末年始には本当に私たちを手伝ってくれて、頼もしく思えました。一年の最初には今年はこの事に頑張るという目標を立てるかと思いますが、去年一年を振り返ってみて、計画通りに物事が進むことは殆ほとんどありません。今年今年の目標は「とにかく一日一日をしっかりと過ごす」事です。去年は色々な新しい事にチャレンジしましたが、今年も失敗を恐れずに、「とりあえずやってみる」という事で一年過ごしてみたいと思います。



編集後記



十二月は師走しわすと言って、語源はお坊さんが走り回る程忙しい季節と言いますが、浄土真宗では報恩講が勤められる秋が一番忙しい季節のような気がします。十月に入れば富山別院の報恩講が始まり、その後は自坊や近隣のお寺の報恩講に出仕します。それが終わればご門徒さんのお宅の内仏で報恩講を勤めます。親鸞聖人の祥月命日しょうつきめいにちには「御正忌」が勤められます。確かに忙しいのですが、それはいろいろな方とお話が出来るとても貴重な時間です。今年も報恩講に伺うかがったお宅で、「やっぱりお坊さんと一緒にお仏壇に向かつて正信偈のお勤めが出来て、とても胸がすつとしました。」と言っていただけた事もありません。私たちはとても忙しい日常を過ごし、自分自身を見つめ直す暇がありません。だからこそ報恩講の時には日常を離れて、一緒に仏さまの前で自分を見つめ直す事が必要だと思えます。

辻徳法寺

派 谷 派
跡 聖 跡
寺 人 の 寺
大 聖 柿
宗 鸞 本
真 親 三

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

[@temple_english_tokuhoji](https://www.instagram.com/temple_english_tokuhoji)



次回の仏教講座は3月10日（月）を予定しています。

1、2月はお休みいたします。